

## 介助犬成育 家族で協力

中島 麻里 主婦

(名古屋市天白区) 38歳  
わが家にいる日本介助犬協会の繁殖犬が三月、赤ちゃん五匹を出産した。昨年の出産時は協会職員がわが家に来ていろいろと見守ったりケアしてくれたりした

が、今回は感染拡大が続いた新型コロナウイルスの影響で無料通信アプリや電話でのやりとりのみとなった。犬の育児のプロでもない私たちが生後二カ月になるまで無事に世話できるのか、不安だった。

学校は休みとなり外出の自粛が求められて家にいる時間が増えた家族に随分助けられた。小学校四年生になった息子は「育ワン日記」を書いた。犬が家中を走り回るようになったら預かる期限の生後二カ月となり、別のボランティア宅に引き取られた。

「ちょうどその頃、本紙で介助犬を使用する人の記事を読んだ。私たちの活動がここへつながるのだと思うと心が温かくなった。ウイルス禍は障害者にとって私たち以上に神経を使ったはずで感染の終息と、誰もが住みやすい社会の実現を願わずにはいられなかった。